

2011年度 日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点 研究プロジェクト 研究計画書

2011年5月9日提出

1. 研究プロジェクト名	「日本文芸と美術」プロジェクト	
2. 研究プロジェクト代表者	John Carpenter	
3. 研究班 メインとなる研究班 その他		京都文化研究班
		日本文化研究班
		歴史地理情報研究班
		デジタルアーカイブ技術研究班
		Web活用技術研究班
4. 研究期間	2011年 4月 ~ 2012年 3月	
5. 研究メンバー		
種別	氏名	所属・職名
事業推進担当者	John Carpenter	ロンドン大学SOAS・教授, 立命館大学衣笠総合研究機構・特別 招聘教授
	赤間亮	立命館大学大学院文学研究科・教授
特別招聘教員	鈴木桂子	衣笠総合研究機構・准教授
研究員		
客員研究員	亀田和子	カナダ・ブリティッシュコロンビア大学博士後期課程 日本学術振興会・特別研究員PD (南山大学)
	松葉涼子	
PD	前崎信也	立命館グローバル・イノベーション研究機構・PD 衣笠総合研究機構・PD
	金子貴昭	
RA	加茂瑞穂	立命館大学大学院文学研究科・D3 立命館大学大学院文学研究科・D3
	Bincsik Monika	
学内研究協力者	Daniel Sastre D e La Vega	立命館大学大学院先端総合学術研究科・D4
その他	Joshua Mostow	カナダ・ブリティッシュコロンビア大学 金城学院大学・教授 浮世絵研究家 カナダ・ブリティッシュコロンビア大学 オランダ・ライデン大学
	張小鋼	
	岩切友里子	
	池田麻人	
	Daan Kok	

6. 2011年度教育研究計画（今年度の教育研究内容、目的と結果の予想の関係が理解できるようにご記入ください。特に若手研究者（研究メンバーのPD、博士課程後期課程大学院生）の役割、教育効果を具体的にご説明ください）。

**近代における京焼の国際化に関する研究**

【目的】近代の京焼と英国のスタジオ・ポタリー運動の関連を明らかにする。

【研究内容⇒予想される結果】

○近年現存が確認された京都朝日焼の陶工松林靄之助が遺した文献を整理、研究する。（担当・PD前崎）

⇒内容が多岐に渡る文献資料の効率的なアーカイブ化に関する方法論を提示する。本研究は前崎研究員がすすめている「陶磁器データベース」プロジェクトと連動することによって、陶磁器制作史の具体的な研究結果へと繋がっていく。

**浮世絵・版本の図像整理に基づく、近世視覚文化の総合的研究**

【目的】本研究では、拠点で中心的にすすめている浮世絵、版本のデジタル化によって、網羅的な図像の整理が可能となったことを踏まえ、中国文学・美術、武者絵、演劇、戦争画、文化人類学などそれぞれの専門の分野から近世絵画にある基本的な図像を整理し、新たな図像の解釈を発掘する。さらにはそれらの作業によって、絵画が表現されるメカニズムを読み解くことを目的としている。

【内容⇒予想される結果】

○国内外の絵手本資料を調査、収集し、ARC書籍閲覧システム・artwikiを用いて、絵手本、画譜にある画題を整理する。（担当・鈴木、松葉、RA加茂、岩切）

⇒各作業が画題データベースへと展開し、浮世絵研究に必須の基礎的事典となる。

○UBC・SOAS・ARC合同研究会を月一回開催する。国内外のネットワークを広げるために発表者は外部からも募っており、すでに海外、国内から2名の参加者がみこまれている。それぞれの研究成果は最終年度論文集というかたちで成果発表する予定で、研究会と同時に企画を纏める。（企画、運営担当・PD松葉、UBC亀田、UBC池田、SOASカーペンター）

⇒最先端の海外研究での成果をふまえた、視覚文化研究の成果を公表する。海外交流の具体的な実践例となり得る。

**浮世絵からみる漆器受容に関する研究**

【目的】第一に、浮世絵に描かれる漆器から、近世期の庶民層における漆器の受容を考究する。第二に、漆器と浮世絵版本間で共通する図像をみつけだす。

【内容⇒予想される結果】

○浮世絵DBユーザーメモシステムを用いて浮世絵に描かれた漆器を整理する。（担当・RAビンチク）

⇒今まで不明確であった、漆器の年代や、享受層を浮世絵から明らかにする。

○DB、カタログを利用して漆器と浮世絵の図像の分析を行う（担当・RAビンチク、RA加茂、松葉）

⇒分野を超える図像研究の具体的成果の公表。担当者にはパネル形式の口頭発表として学会参加させる。

④ **藤井永観文庫オンラインカタログの充実とバイリンガル化**

【目的】藤井永観文庫のデータベースを元に、そこに解説文を充実させる。解説文の基礎となる2006年出版の図録『藤井永観文庫の優品』の解説を発展させ、詳細化し、それを英訳して、バイリンガル化する。

【内容⇒予想される結果】

○藤井永観文庫のデータベースの整理・改良、ならびに海外への情報公開の加速化（担当・RA高橋、金子）

7. 教育研究計画・方法		
教育研究目的を達成するための計画・方法、実施する場所をできるだけ具体的に記入してください		
実施時期	計画内容	実施場所
4月～3月 (通年)	京焼文献資料の撮影を実施し、イメージデータベースを構築する。	立命館大学アート・リサーチセンター
4月～3月 (通年)	国内にある絵手本資料の調査	個人コレクター宅、都立中央図書館、国立国会図書館、西尾市立岩瀬文庫、千葉市美術館
5月～3月	年2回(10月、2月)「近世視覚文化を読み解く」研究会の実施。 (予算¥200,000:講師謝礼、交通費)	立命館大学アート・リサーチセンター、ロンドン大学SOAS、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学
3月	浮世絵と漆器というテーマをもとにAASでパネル発表を行う。	ハワイ大学
5月～8月	『藤井永観文庫の優品』解説文の点検・修正。 藤井永観文庫の現物調査による、新たな解説文の追加英訳作業。	立命館大学アート・リサーチセンター